Newsletter　URL:www.savechildren.or.jp　0120-317-502

world's children

Save the Children JAPAN　発行元　社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒103-0021　東京都中央区日本橋本石町3-2-6 ストークビル８F　Phone:03.3516.8922

Winter 2007 No.42

「Rewrite the Future ～いっしょに描こう！子どもの未来」の１年、達成したこと、感じたこと、そしてこれから。

Rewrite the Future

「Rewrite the Future ～いっしょに描こう！子どもの未来」活動の軌跡

セーブ・ザ・チルドレン（以下SC）の「Rewrite the Future ～いっしょに描こう！子どもの未来」（以下RTF）キャンペーンは、戦争や武力紛争のために学校に通えない何百万人もの子どもたちに質の高い教育を確保することに、主眼を置いています。2007年９月までに達成した多くの実績と挑戦の記録をお届けします。

最前線にて

世界で学校に行けない初等教育年齢の子どもの数は、１億人から7,700万人へと減少しましたが、紛争の影響を受けている国々の状況はほとんど改善されていません。SCは、ミレニアム開発目標の期限である2015年時点で少なくとも3,000万人の子どもたちが学校に通っていない状態であると予測しており、そのほとんどは紛争の影響を受けている国々の子どもたちであると予想されます。紛争地では今も、住宅や学校、病院は爆撃を受け、畑にはあちらこちらに地雷が埋められ、食糧の供給は断たれ、家族は生活を維持し子どもたちの健康と安全を守るのが困難な状況です。過去10年間に、武力紛争で200万人の子どもが殺され600万人が負傷、そしてさらに2,000万人が住居からの避難を余儀なくされたと推測されています。

セーブ・ザ・チルドレンの活動

SCには、紛争の影響を受けた子どもたちを援助してきた90年近い実地経験があります。私たちのRTFは、戦争や紛争によって学校に行けない800万人の子どもたちに教育の場を提供するための活動に重点的に取り組んでいます。想像を絶するような状況においても、有効な解決をもたらすことは可能であるという経験に基づく信念のもと、これからも挑戦を続けていきます。



Photo:Felicia Webb / Save the Children

SCJでは紛争の影響を受けた20ヶ国以上の子どもたち、340万人に教育の支援を行いました。その一部を紹介していきます。

新たな学校の設立・古い学校の増設や再建

ダルフールでは、2006年に新たに10の小学校を設立しました。また、ネパールでは、2,039の学校と協力し、3校が新たに設立され、994校が改築されました。ウガンダでは、新たに95教室を設立し、8,339人の子どもたちが通学できるようになりました。カンボジアでは、紛争の影響を受け、30年以上も教育機関がなく、非識字率100％の村が多くあります。SCの学校建設により、2006年は、8,819人の子どもたちが初めて教育を受けることができました。

学習機会の提供

スーダンでは紛争のため通学できなかった年齢の高い子どもたちに支援を行いました。インドネシアのアチェでは退学となってしまった学生が試験を受けられるようになりました。ボスニア・ヘルツェゴビナでは、15歳から18歳の子どもたちを対象に補習の形で初等教育を受けられるようにしました。

女子の教育支援

現在でも女子が共学校に行くことが認められていない地域があります。アフガニスタンでは、女子校を支援し、女性教師のトレーニングを行い、またスーダン南部でも、100人の女性教師の育成を行いました。

緊急支援で教育を優先すること

教育は、紛争中の子どもの保護の面で重要な意味を持ち、国々が回復し再建するための大きな力となります。しかし、危機の初めには、教育を扱う支援機関はほとんどなく、食糧や水、医療だけが強調されがちです。

その結果、緊急援助の初期に教育に向けられる支援は限られてしまいます。支援国は、もっとも支援の必要な『紛争の影響を受けた脆弱な国々』の教育に対してわずかしか支援していません。紛争の影響を受けた脆弱な国々には、未就学の子どもたちの半数が居住しているにもかかわらず、世界の教育支援の５分の１以下の額しか受け取っていません。全体で、たった18パーセントしか紛争の影響を受けた脆弱な国々にはあてられていないのです。

SCは支援活動において教育を重要視しています。「教育は子どもたちを紛争の被害から守ることができます。そして、教育により貧困のサイクルを打ち破ることができるのです。教育はまさに未来への鍵となります。だからこそその緊急支援においても、国際社会は教育をその重要課題のひとつにしなければならないのです。」　ルイス・ミシェル※

※欧州委員会　開発と教育担当委員　2006RTF支持声明にて

コラム「子どもの権利」



子どもたちを苦しめている問題は、国内外を問わず山積しています。守られるべき「子どもの権利」はどこに！？この度、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（SCJ）は、「子どもの権利」の理解・推進を目指し、情報の発信源となる「チャイルド・ライツ・センター」を新設しました。本連載コラムはこの流れを汲むもので、SCJが活動の指針とする国連「子どもの権利条約」を取り上げ、条項がどのような権利を示しているのかわかりやすく解説していきます。その際、SCJの支援活動、現代の子どもの問題、最新の子どもの政策などを織り交ぜ、お伝えしてまいります。ご期待ください！

「子どもの定義」

国連「子どもの権利条約」は、18歳未満を子どもと定義しています。この条約は、子どもの保護の視点から、18歳未満の者が武力紛争に関与・参加することがないよう制限を加え、危険な労働に従事することがなく、すべての子どもの教育機会を保障するよう締約国に義務付けています。そして、多くの国が、この条約を基準とし国内法を整備しています。例えば、ヨーロッパ諸国（イギリス、ドイツ、フランスなど）またインド、ブラジル、メキシコなども、18歳以上を民法上の成人と定めています。

子どもの定義に関しては、選挙権など公民権の問題にも関わってきます。現在、およそ150の国で18歳以上の者への社会参加、選挙権が付与されています。一方、日本では20歳未満の者へは選挙権が付与されていません。これは、100年以上前に「20歳をもって成人とする」と民法で定めたことによります。昨今、国民投票法案論議をめぐり、この「成人」年齢を国際的な流れに従い20歳から18歳に引き下げるべきではないかという議論があります。但し、議論に際し、直接影響を受ける若者が議論に参加できていないため、若者の視点が欠けているように感じます。

子ども・若者が社会の一員として自己の考えや意見を表明することは、彼ら自身に自覚を促すことであり、同時に、より良い社会を形成するために必要不可欠なことでもあります。SCJが、「子ども・若者の声に耳を傾ける」ことをビジョンの一つとして掲げていることの意味がここにあります。

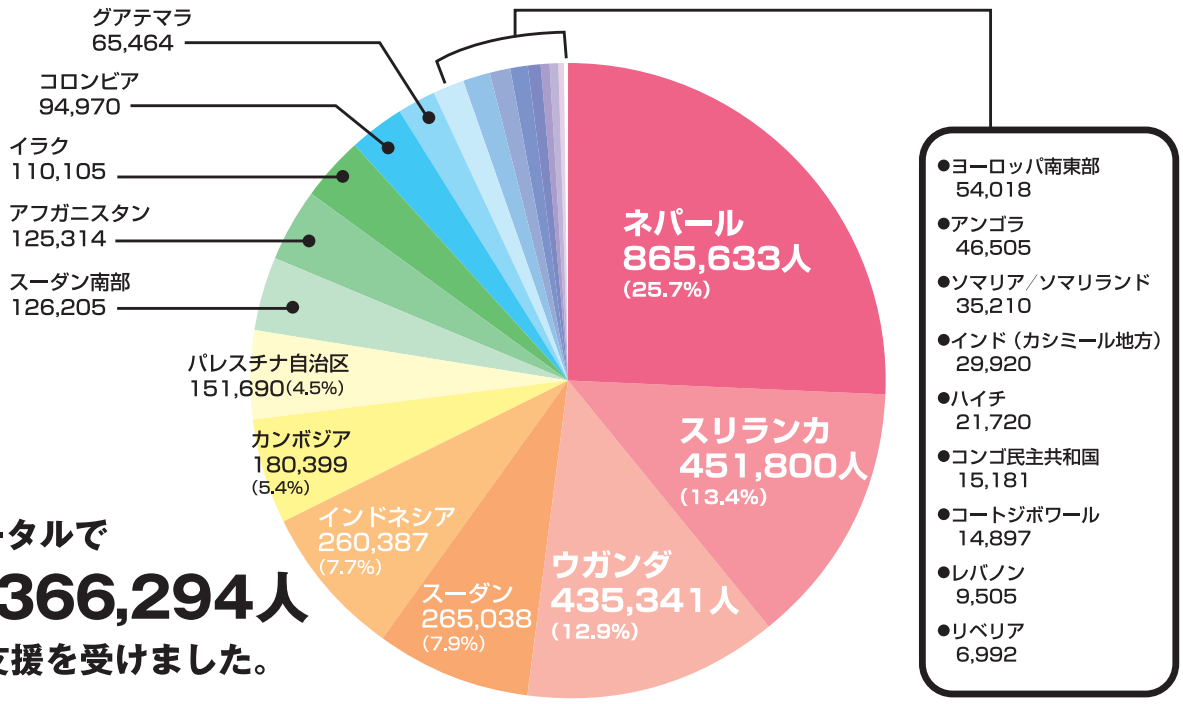
DATAで見るSC
セーブ・ザ・チルドレン

挑戦を続ける「Rewrite the Future」その活動の軌跡をデータで見てみましょう。

～いっしょに描こう！子どもの未来～

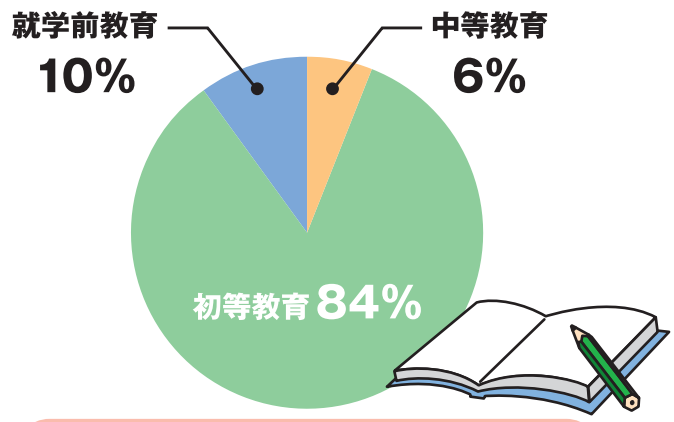
戦争や武力紛争の影響を受けている世界中のたくさんの子どもたちのために挑戦を続けています。
現在までに約340万人に支援を行う事ができました。世界の教育支援の実態とくらべながらデータで見てみましょう。

SCにより教育支援を受けた子どもたち
（2005年/2006年）



トータルで
3,366,294人
が支援を受けました。

SCが支援する教育レベル
（2006年）

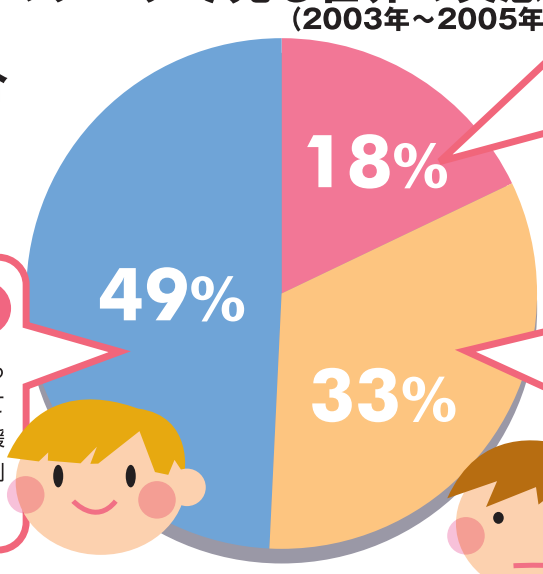


SCは、初等教育に特に力を入れています。初等教育はRTFの大きなチャレンジでもあります。同時に就学前教育および中等教育支援も展開するなど、長期的視野に立つ幅広い教育支援を行っています。

［経済協力開発機構（OECD）のデータで見る世界の実態］
（2003年～2005年）

教育支援額の割合

紛争地に対する支援がまだまだ少ない事がわかります。



中所得国
教育支援のおよそ半数にあたる49%がこの中所得国に割当てられています。この数字から援助国が教育支援の優先度を差別している事がわかります。

紛争地
3人に1人が学校に行く事ができません。現在でも強制的兵役や暴力・貧困によって苦しんでいます。SCでは本当に早急な対応が必要なのは紛争地であると考えています。

紛争地以外の低所得国
極限的な貧困により教育の費用が不足し、男女不平等やその他の要因により、教育から遠ざけられています。現在でも11人に1人が学校に行けない状況です。

教育は子どもたちの未来を変える力です。

教育により社会は発展し安定したものになります。そして、家庭が貧困から脱出する手段となります。また生活状態が改善することにより、子どもたちを守ることができ、人権の侵害や虐待や搾取といった危険性を減らすことができます。しかし、その教育支援が本当に必要な紛争国には未だ援助の割合が少ないのが現状です。SCでは紛争の犠牲となっている子どもたちに教育の場を提供することにより、子どもたちが未来を変えることができるよう活動しています。これからもご支援お願いいたします。



☆世界の教育支援の状況についてSCは詳細なレポート "Last in Line,Last in School" を発表しています。
SCJウェブサイトでご覧いただけます。URL:www.savechildren.or.jp

冬募金へのご協力のお願い

紛争や貧困に苦しむ子どもたちを支援するためセーブ・ザ・チルドレンの活動にご協力下さい。

●冬募金

チラシが同封されている場合は払込取扱票を利用されるか、振込手数料免除の下記口座をご利用ください。

振込先
郵便振替口座00900-1-120760
加入者名
セーブ・ザ・チルドレン子ども基金

※税控除について
当団体へのご寄付は、一定の要件の下に法人税及び所得税の控除対象となります。また、遺贈及び相続財産のご寄付については、相続税控除の対象になります。
詳しくは事務局までお問合せください。

●月々1500円からの 継続サポート

SCサポート　世界中の子どもたちをサポート。セーブ・ザ・チルドレンが活動する世界各国からの子どもたちの声や情報が入ったレポートが届きます。

チャイルド・リンク　国別に子どもたちをサポート。国の「代表の子ども」からの報告を始め、充実した国情報満載のレポートが届きます。

参加すると届くもの　ニュースレター「world's children」年4回、定期レポート 年2回

お支払い方法　クレジットカードか口座振替がご利用いただけます。

セーブ・ザ・チルドレン グリーティングカード発売！

封筒つきカード3種入り 一組 600円（送料込）

株式会社小森コーポレーション様の印刷協力により、セーブ・ザ・チルドレン特製グリーティングカードができました。カードの収益は、世界の子どもたちを支援するセーブ・ザ・チルドレンの活動に活かされます。

年末年始のご挨拶に。セーブ・ザ・チルドレンのカードで大切な方へメッセージを届けませんか？



購入方法
■ **申　込**　電話かFAXにてお申込みください。
FAXの場合は、『チャリティ・グッズ申込書』をホームページからダウンロードして、ご利用ください。
電話 0120-317-502（平日9:30-18:00）　FAX 03-3516-8923
■ **商品発送**　お申し込みから10日以内に、商品とお振込み用紙（郵便局）をお届けします。
■ **お支払い**　振込用紙受け取りから1週間以内に郵便局よりお支払いをお願いします。

＊商品の発送は、日本国内のみに限らせていただきます。

Save the Children JAPAN

詳しくは下記のフリーダイヤルかウェブサイトでお問い合わせください
0120-317-502（平日9:30～18:00）
URL:www.savechildren.or.jp

From SCJ



定松 栄一（さだまつえいいち）
青山学院大学卒業後、英国マンチェスター大学大学院修士課程修了。教育学（農村社会開発学）。
2003年2月からセーブ・ザ・チルドレンネパール事務所代表として勤務。

ネパールレポート

RTF対象国の一つとして、活動が広がるネパールの駐在員の定松スタッフから、現地の学校教育の現状と現地の様子についてレポートが届きました。

日本の生活と違う点

最初ネパールに来たばかりのころはいろいろと不便（たとえば断水、停電など）を感じることもありましたが、ネパール滞在も通算9年を越えた今となっては、かえって日本よりもネパールの方が暮らしやすく感じます。一番のポイントは生活のペースがゆったりとして、その分ストレスを感じることが少ない、ということでしょうか。

ネパールの子どもたちの生活について

RTFの一環として活動を開始した西部の事業地には、戦禍を逃れて避難生活を送りながら、よその家で使用人として働いている子どもたちがいます。朝は冬でも5～6時頃から起きて、夜は9時頃までほぼ一日中、水汲み・掃除・洗濯・皿洗いなど、あらゆる家事労働に従事しなければなりません。食事は雇い主の食べ残しを出されたりすることもあるようです。彼らは学校に通わせてもらえないことが多いのですが、SCJやパートナーNGOが説得して、1日2時間くらい、仕事があまり忙しくない時間帯を選んで、識字学級に出席することを認めてもらいました。次は学校にも通わせてもらえるよう、雇い主に説得を続けていきたいと思います。

SCJの活動について、現地の人の反応は？

ネパールでは「セーブ・ザ・チルドレン」という団体名は、特に事業地に限らず、一般の人々の間でもよく知られていて、「貧しい子どもたちのために活動している団体」としてポジティブなイメージで見ている人が多いと思います。

SCJは、ネパール東部平野では1992年からすでに15年以上にわたって活動していますが、地域の人々はSCJが常に彼らの立場に立って粘り強く活動してきたことをよく知っていますので、私たちの活動を非常に高く評価し、また信頼してくれています。西部平野では昨年から活動を始めたばかりですが、SCJが武力紛争の影響を受けた子どもたちを支援するために村にやって来たことを歓迎してくれています。

日本のサポーターの皆さまへ

SCJはネパールで「すべての子どもに教育を」を合言葉に活動を続けています。皆さまからの温かいご支援のおかげで、多くのネパールの子どもたちが、教育を受けられるようになっただけでなく、紛争の痛手から立ち直って、新たな人生を切り開いていく勇気を得ています。どうか今後とも、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



写真：毎日新聞社提供

緊急支援活動 ～皆さまの温かいご支援が現地に届いています～

今年も世界各地で緊急災害が頻発しました。SCは、このような災害に対して迅速に対応しています。SCJでは、日本人スタッフを現地へ派遣するなど、現在も復興支援に寄与しています。

☆ 南アジア洪水

＊ ネパール

今年の洪水被害は特に大きく、60万人以上の人々が被災しました。SCJの支援地域が最も大きな被害を受けましたが、いち早く食糧、防水シート、医薬品などの援助を行いました。現地で活動している100以上の国際NGOの中でも、SCJは最も早く対応できたケースで、その活動は現地の全国紙でも掲載されました。現在も、支援活動を継続中です。

＊ パキスタン

6月末に南部を襲った洪水は、38万の人々の家屋を奪い、250万人もの被災者を出しました。SCJは日本人スタッフを派遣し、もっとも深刻な被害を受けた地区で、仮設シェルターや緊急物資の配布を行っています。現地では雨季のため水害が続いており、これからも支援を続けていきます。

☆ インドネシア地震

9月、M6～8の大地震がスマトラ島を立て続けに直撃しました。被害を受けた世帯は56,000以上に及びました。SCは、災害直後から迅速に家庭用品・医療品などの配布を行い救助活動を開始しました。SCJは日本人スタッフを派遣し壊れた学校にテントなどを配布し教育支援を行っていきます。

☆ ペルー地震

8月に南部を襲ったM7.9の強い地震による死者は500人を超え、10万世帯以上が被災しました。事業地での長年の活動経験を活かして、迅速かつ効果的に支援活動を展開することができました。シェルター配布などの緊急救援活動後は、災害の心理的ケアなど復興支援を展開していきます。

モンゴルでの活動スタート。



日本のサポーターの皆様、初めまして。9月からモンゴル駐在員として勤務を開始した上田雅子と申します。日本での注目が集まる親日的な同国で、子どもたちのために活動していけることを心より嬉しく思っています。

モンゴルで開始する活動・その必要性

モンゴルでは、90年代に起こった社会主義の崩壊、市場経済の導入の影響を受け、貧富の格差拡大、失業率悪化による家庭崩壊といった社会問題が深刻化してきています。SCJは、それらの問題の影響を最も深刻に受けている子どもたちを教育面及び福祉面で長期的にサポートしていく活動を開始します。初年度に当たる今年は、ストリートチルドレンと障がい児を対象とした活動を展開していきます。

路上生活を送る子どもたちは、冬は零下30度にもなる路上で、栄養不良、病気と闘いながら生活しています。SCJは、彼らが最低限必要とする支援を提供する一方、一人でも多くの子どもが元の家族と再会して再スタートできるようにサポート活動を行っていきます。障がい児に対しては、健常児との統合教育を促進するための活動を行っていく予定です。

サポーターの皆さまへ

モンゴルでは人口の40%以上を18歳未満の子どもが占めています。SCJは、国の未来を支える子どもたちが、最低限の生活を保障され、また差別なく教育を受けられるように、長期的な活動を予定しています。皆さん、是非応援してください！

パートナーニュース Partnership

企業の社会貢献への取り組みは、ますます多様化しています。この冬、セーブ・ザ・チルドレンを応援するシーズンギフトやイベントが街を彩ります。ぜひ、国際協力しながら冬のイベントシーズンをお楽しみください。

こころも美しく全国に広がるハッピーの輪
●クリニーク



化粧品ブランドのクリニークは、11月9日から12月25日まで2007 happy holidayキャンペーンを全国の約140店舗で実施。ひとりでも多くの子どもたちにhappyをという思いのもとにSCへのご寄付をいただきます。キャンペーン サイト(www.happy2007.jp)を11月1日から立ち上げ、オリジナルカードが作成できるe-cardサービスを介しSCの活動に関する情報が提供されます。e-cardでハッピーな気持ちをお友達やご家族と共有されてはいかがでしょうか。
クリニーク公式サイトwww.clinique.co.jp

贈る温かい思いが子どもたちへ
●タリーズコーヒー

タリーズコーヒーからは、2003年よりコーヒー豆「バンビーノブレンド」および「タリーズ・ピクチャーブックアワード」の絵本の売上の一部寄付を通したご支援をいただいています。11月7日から12月31日まで、「2007ウィンターギフトセット」がタリーズコーヒー各店舗で販売されますが、こちらの売上の一部もSCJに寄付されます。コーヒー好きなお友達への素敵な贈り物として、ぜひご利用下さい。



フットサルを通じて全国に呼びかける
●シュライカー大阪



フットサルの全国リーグ、Fリーグが、今年9月に開幕しました。大阪府からのチーム、シュライカー大阪は、ユニフォームの胸に、SCJのロゴを入れています。これは、シュライカー大阪が、SCJを支援していることを示すとともに、フットサル・ファンに向け、SCJへの協力を呼びかけるものです。シュライカー大阪には、寄付をいただくとともに、試合会場でSCJのパネルを展示し、ビデオを放映し、募金活動も行っていただいています。また、SCJのロゴの入ったユニフォームは、プーマより販売予定です。

素敵な生活がつなぐ“子どもの笑顔”
●ママイクコ

「パリのふだんの生活」をテーマにした生活雑貨の店、ママイクコでは、9月より、全国の直営店79店に、SCJの募金箱を設置していただいています。ママイクコは、ホワイトバンドやSCJのTシャツ販売などを通じた社会貢献を行ってきました。この度、SCJとともに、世界の子どもたちへ継続的な支援を実施していただくことになりました。ぜひ、ママイクコのお店の中で、素敵な雑貨に囲まれたSCJの募金箱を見つけてください。



Topics!

秋篠宮妃ご臨席のもとチャリティー・ガラ2007開催



世界最高峰のシャンパン「ドン　ペリニヨン」の日本総代理店MHDディアジオ　モエ　ヘネシーと100年以上の歴史をもつ帝国ホテルのご協力による『ドン　ペリニヨン　セーブ・ザ・チルドレン　チャリティ・ガラ』が6月18日帝国ホテル・富士の間にて開催されました。1987年から開催されて第20回となる今年は、秋篠宮妃紀子殿下のご臨席を賜わりました。また、コンサートではウィーン在住で国際的に活躍しているピアニストの梯　剛之氏によるクラシックピアノ演奏が披露されました。世界一のシャンパンと素晴らしいスペシャルディナーと音楽をSCJの活動に賛同された390名が堪能されました。

今、セーブ・ザ・チルドレンでは紛争の影響を受けた子どもたちに教育の場を提供し、希望に満ちた明るい未来を描く「Rewrite the Future～いっしょに描こう！子どもの未来」に取り組んでいます。チャリティイベントの会費・寄付は、このキャンペーンを含め子どもたちを支援する活動のために役立てられます。

ご参加頂いた方々、ご協力いただきました企業、アーティスト、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。